

## ストックの直播栽培に関する試験

森園寛治・桑原宏司 (佐賀県農業試験場)

Kanji MORIZONO and Kouji KUWAHARA : Studies on direct-sowing culture of stock (*Matthiola incana* R.Br.)

ストックは通常、箱播・移植で栽培されるが、佐賀県では定植労力の軽減と栽培期間の短縮を目的とした直播栽培が行われている。しかし、直播栽培では八重鑑別が困難なために八重株率が低下しやすいことが問題となっている。そこで、直播栽培における栽培技術確立を目的に、八重株率向上のための技術及び播種期と開花時期の関係について検討した。

### 1. 材料及び方法

供試品種は、いずれの試験においても極早生種の‘高波’ (白色) と‘早麗’ (桃色) を用いた。

【試験1 幼苗時の形態と八重株の関係】 1989年8月22日に直播を行い、播種30日後に大小の苗をランダムに残して間引きした。それぞれの株について子葉及び第一本葉の葉長、葉幅、葉柄長を測定し、それらの形態と八重株の関係について調査した。

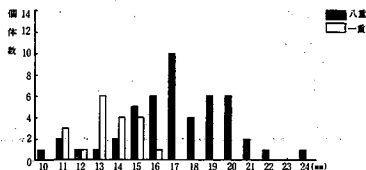
【試験2 遮光期間と八重株率】 1990年8月15日に1区当たり100粒を直播し、播種後ただちに寒冷紗 (#600) で被覆して栽培した。寒冷紗による遮光期間は播種後6日間区、10日間区及び無遮光区とした。その後は、八重鑑別を行わずに栽培して、播種後の遮光期間が株の生存率及び八重株率に及ぼす影響を調査した。

【試験3 八重鑑別時期と八重株率の関係】 1990年8月15日に直播し、播種後1週間は寒冷紗で遮光した。八重鑑別日は播種後13日、18日及び33日とし、それぞれの鑑別日を組合せて1~3回の八重鑑別を行った。八重鑑別指標としては子葉及び第1本葉の大きさのみとした。

【試験4 播種日と開花期】 1990年7月5日から9月5日にかけて約10日毎に播種した。播種量は直播栽培では78ml/a、移植栽培 (箱播) では48ml/aとした。八重鑑別は、直播栽培では子葉、本葉の大きい株を残した。移植栽培では子葉の大きい株を残した。

### 2. 結果及び考察

【試験1】 子葉及び第1本葉の調査の結果、形態によって八重株と一重株との間に最も差が大きかったのは、第1本葉の葉長及び葉幅であった。従来まで利用されていた子葉の大きさと同じく、第1本葉の大きさも八重鑑別指標として利用できると思われた。



第1図 早麗の第1本葉の葉幅と八重株の分布

【試験2】 播種後の発芽率は遮光を行うことで高くなったが、採花時の生存株率は遮光期間に関わらず30~40%程度になった。遮光期間が八重株率に及ぼす影響についてみると、遮光を全く行わなかった区及び播種後6日間遮光を行った区では、生存株の八重株率は60%程度であったが、播種後10日間遮光を行った区の八重株率は‘高波’は82%、‘早麗’では74%であった。

第1表 播種後の遮光期間が採花本数及び八重株率に及ぼす影響

品 種	遮光期間(日)	採花本数 (本/m <sup>2</sup> )			八重株率(%)
		八重	一重	計	
早麗	0	18	9	27	66.7
	6	27	14	41	65.9
	10	31	11	42	73.8

【試験3】 ‘早麗’では播種後13日後の子葉による鑑別では、八重株率は約77%であったが、播種18日後の第1本葉による鑑別では82%であった。また、播種33日後では株の生育が進み、間引き後の根傷みが発生した。八重株率の向上のためには子葉及び本葉で2回鑑別することが効果的であったが、本葉のみの1回鑑別でも実用的には充分と思われた。

第2表 八重鑑別時期が八重株率に及ぼす影響

品 種	処理区	八重鑑別日 (播種後日数)		八重株率	切花長	平均開花日	
		13	18				
早麗	1	13		76.7	86.6	11/9	
	2	13	18	91.7	87.8	11/12	
	3		18	82.4	86.0	11/9	
	4	13	33	89.7	88.0	11/10	
	5	13	33	86.5	85.8	11/10	
	6		18	33	88.9	88.4	11/13
	7		33	33	88.9	89.6	11/13

注) 八重鑑別指標 13日目: 子葉の大小 18, 33日目: 本葉の大小

【試験4】 開花時期は直播栽培が移植栽培に比べて1~3週間早くなった。‘早麗’の7月上旬直播では9月、8月上旬直播では11月、9月上旬直播では12月に開花した。また、直播栽培でも切り花長は十分確保され、切り花品質は高かった。一方、八重株率はほとんどの播種日で80%以上であった。

第3表 播種日が開花日及び切花品質に及ぼす影響 (早麗)

播種日	播種方法	開花日	切花長	花穂長	節数	中央茎径	腋芽数	八重株率
7/5	直	9/26	83.6cm	26.2cm	69.8節	8.3cm	1.4本	97.3%
	移	10/7	76.2	25.6	57.6	8.7	1.4	80.8
7/26	直	10/23	91.2	23.4	60.6	8.2	0.8	85.7
	移	11/1	94.4	24.8	55.4	10.4	1.0	81.3
8/15	直	11/13	92.0	30.8	41.6	10.4	0.4	93.8
	移	11/18	87.2	33.6	34.2	8.5	0.6	82.1
9/5	直	12/7	89.6	27.4	34.8	8.8	1.0	87.5
	移	12/14	79.2	26.2	30.8	7.9	0.2	83.3

以上の結果、ストックの直播栽培では、播種後10日間寒冷紗被覆を行い、播種18日程度後に第1本葉の大きさのみで1回鑑別を行えば、80%以上の八重株率の確保が可能であった。一方、播種を7月上旬から9月上旬にかけて行えば、十分な切り花品質のものが9月下旬から12月にかけて採花が可能であった。